

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和8年度第1回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和8年4月22日（水）16:00～17:20
- 場 所：こども病院 講堂
- 出席者：堀内理事長（議長）、楠原副理事長、石橋理事、神坂理事、田川理事、柳澤監事 [欠席：瓜生理事、近藤監事]

□ 議 事

【議案審議】

1 議案第1号 診療科目の新設及び組織規程の一部改正令和7年度業務実績報告書（案）について

<概要>

福岡市民病院の診療科の新設と、それに伴う地方独立行政法人福岡市立病院機構組織規程の一部改正及び課長以上の職の設定について事務局より説明を行い、原案どおり可決された。

<主な意見等>

- 総合内科の人員に関して補足すると、人員が増えるのではなく、科長は診療統括部長が兼任し、医師については、既存の診療科から交替で従事してもらう医師と、研修医で対応したい。外部に対しては、診療所等から不明瞭な症状や炎症があるなどの患者をご紹介いただく窓口となる。また、救急で受け入れた後、どこの診療科にも振り分けられないような症状の患者も、総合内科で受け入れたい。

【報告事項】

1 令和7年度業務実績報告書（案）について

<概要> 令和7年度に係る業務実績報告書（案）について、事務局より説明を行った。

（主な取組）

《医療サービス》

【良質な医療の実践】

○（こども病院）第一種協定指定医療機関として、引き続き、福岡県における新興感染症等に係る小児救急医療の提供を行った。県の「母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、救急母体搬送の受け入れ及び新生児搬送を引き続き積極的に実施した。県等が実施する「小慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、レスパイト入院の受け入れを拡大した結果、令和6年度から15人増加し21人の受け入れを行った。たけのこ外来において移行期支援を継続して実施しており、こどもアレルギーセンターにおいて、小児アレルギーエデュケーターを中心に、多職種で16種の移行支援ツールを作成し、62件の支援を行った。

厚生労働省DPC公開データにおいて、川崎病230例について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が10年連続で全国1位となるとともに、複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例55例については昨年に引き続き全国2位、前々年度まで8年連続全国1位となるなど、順調に成果を挙げた。臨床研究については、科学研究費助成事業等で採択された課題に積極的に取り組み、16件の研究に参加した。臓器提供施設として、当院で初めて、脳死下臓器提供を行った。

○（市民病院）本年度上半期では病床稼働率、救急搬送件数が対前年比減となる状況が続いたが、様々な対策を講じたことで救急搬送件数を除く主な指標については目標を大きく上回った。循環器内科において、患者への負担軽減となる新たな技術の導入を行った。また、肝臓外科においては、胆のう・膵臓疾患に対する手術も多数手がけていることから専門性を対外的に正確に伝えるために「肝臓・胆のう・膵臓外科」と標榜診療科名の変更を行った。さらに、CT・MRI等の断層画像から高精度な3D画像を抽出し解析を行うシステムを九州で初めて導入した。令和6年度より開始した医師、救急救命士同乗による脳卒中、循環器疾患の紹介元医療機関への迎え搬送についても随時実施した。救急患者の受入体制について、改めて「断らない救急」への体制強化を目的として、

受付フローの改善など様々な改善に取り組んだ結果、救急応需率を始めとした指標が改善した。

【地域医療への貢献と医療連携の推進】

- （こども病院）「こども病院カンファレンス」等のオープンカンファレンスを開催し、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組んだ。在宅医療を担う医療機関等の人材育成を目的とした小児等地域療育支援病院研修会や特別支援学校の職員を対象とした研修会を開催するなど、県の小児等在宅医療推進事業の拠点病院としての役割遂行に努めた。年末年始一次救急の小児科当番医療機関として、12/31 及び 1/3 の 2 日間で、延べ 147 人の患者に診療を行った。
- （市民病院）地域の医療機関訪問を積極的に実施。脳卒中・循環器疾患での受け入れでは、昨年度に引き続き救急救命士および医師が病院救急車に同乗し実施した。福岡東部オープンカンファレンス等の研修会を開催した。6 期目となる看護師の特定行為研修は、外部から受講希望がなかったものの、院内の受講生 3 人で開講し、全員が無事に修了した。地域包括ケアシステムにおいては、在宅スタッフを招いての退院前カンファレンスは継続して積極的に実施した。本年度も福岡市歯科医師会と連携し、入院患者の口腔アセスメントのラウンドを実施した。

【災害・感染症等への適切な対応】

- （こども病院）東消防署との合同訓練や災害時参集訓練等を実施するとともに、大規模災害訓練として、地震発生直後の初動期における訓練を行い、災害対策本部の設営から情報収集等の訓練を実施し、職員の防災意識及び対応力の向上を図った。小児感染症医療の提供体制を確保するために P P E 等の必要在庫の確保に努めた。
- （市民病院）災害発生に備え緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練を 2 回実施するとともに、B C P（事業継続計画）や災害時の患者対応フローの確認を行った。また、消防訓練については元消防署長の防災・救急担当部長を責任者とし、図上訓練及び総合訓練を行った。感染症対応を目的として、11 月に福岡市保健所と、12 月には福岡検疫所との合同訓練を行った。市保健所とは、高病原性鳥インフルエンザ H 5 亜型の発生を想定し、検疫所とは、新型インフルエンザ等感染症患者の発生を想定し、訓練を実施した。JPTEC、MCLS に講師派遣を行った。感染管理認定看護師の段階的な増員を検討しており、現在の感染管理認定看護師数は 3 名となった。

《患者サービス》

- （こども病院）地元プロスポーツ球団による病院訪問や、ウォルト・ディズニーこども病院イニシアティブによる壁紙の寄贈、大阪・関西万博のリモート体験など、外部からの支援を積極的に誘致し受け入れた。医療・福祉・療育に関する相談や在宅療養生活への支援、転医・転院等に関する相談について、適切な対応を行った。
- （市民病院）患者満足度調査を毎月実施し、当該職員及びその所属長へフィードバックして指導を行った。年に 2 回実施している外来アンケートにおいて、会計に時間がかかるとの指摘を受けたため、改善を図った。患者・家族等からの医療・福祉に関する相談等について、適切に対応した。病棟内の環境改善について、プライバシーに配慮した環境を整えた。外来診療の予約変更、確認、キャンセルについて A I 電話を導入することで午後のみ限定していた電話の受付を午前中も対応できるようにした。また、代表電話と分離することで代表電話の混雑緩和にもつながった。

《医療の質の向上》

【病院スタッフの計画的な確保と教育・研修】

- （こども病院）初期研修医や医学部学生を対象とした「F u k u o k a C H O P P S」や、看護学生等を対象とした「病院説明会・見学会」を実施し、意欲ある人材の確保に努めた。他施設の新人看護職員を対象とした研修の開催など、小児専門病院としての役割遂行に努めた。新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・倫理・医療接遇等の研修を行うとともに、全職員を対象に医療の質向上研修として、接遇療養研修を実施した。資格取得支援制度の活用を促進し、皮膚排泄ケア認定看護師が 1 名増えたほか、1 名が特定行為研修受講を修了した。
- （市民病院）①看護師については、令和 7 年度は 5 回、外部の就職説明会へブース出展にて参加した。さらに病院見学会を 6 回行い、開催時は看護部作成の P R 動画を活用するなど、採用活動に積極的に取り組んだ。あわせて、看護学校からの実習生を受け入れた。院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において、引き続き、年次有給休暇の取得率向上に向けた周知活動に取り組むなど、職員がやりがいや充実感を感じる職場環境づくりを

推進し、令和7年度の看護職員離職率は6.9%となった。集合研修や、Web研修、勉強会等を院内で適宜開催するとともに、職員へ外部研修の積極的な参加を促進し、10月に「ユマニチュード」考案者のイヴ・ジネスト氏を招き、高齢者との向き合い方や認知症ケアの専門性を高める研修会を実施した。認定看護師等資格取得支援制度を活用し、3人が当院で開講する特定行為研修受講を修了し、2人が院外での特定行為研修受講を修了した。

【信頼される医療の実践】

○（こども病院）感染対策室、院内感染対策委員会、及びICT（感染制御チーム）の連携推進や、地域の医療機関とのカンファレンスを実施し、感染防止対策の強化を図るとともに、医療安全についても、積極的なインシデント報告を推進し、インシデント事例をTeamSTEPPS®のスキルのフィードバックに活用し、再発防止に努めた。クリニカルパスの更なる充実を図り、クリニカルパスの疾患数が令和6年度から4つ増加している。

令和8年度の病院機能評価受審に向け、ワーキングチームを立ち上げ、現状の把握と業務改善に取り組むとともに、院内におけるケアプロセス形式監査を8回実施し、医療の質向上を図った。

○（市民病院）感染症専門医を中心に、他病院との合同カンファレンスや相互ラウンド等を実施した。また、医療安全対策地域連携ネットワークにおいて、参加施設間での意見交換・相互評価を実施した。クリニカルパス専任看護師の配置により、治療内容の可視化を行い患者中心の医療を実践した。令和7年度はクリニカルパスの修正、公開パス以外にも新規パスを作成した。病院機能評価を令和7年8月に受審し、年度中に更新認定を受けることができた。

【情報発信】

○（こども病院）SNS等を活用して分かりやすい情報発信に取り組んだほか、CGGプログラムの2回の開催、アイランドシティフェスティバルに参加し病院のドクターカーを展示するなど、地域への情報発信を積極的に行うなど開かれた病院づくりに努めた。「こどもアレルギーセンター」において、アレルギー疾患に係る知識向上を目的とした講演会を計3回開催し、112人に参加いただいた。多くの子育て中の保護者に子どもの病気や正しい対処法等の情報を届けることを目的として、専門医による新聞コラムを掲載した。

○（市民病院）SNS等を活用として、インスタグラムの利用を推進した。地域住民の健康意識の向上と、地域に根差した情報発信を目的として出前講座を開催した。希少疾患である遺伝性血管性浮腫（HAE）に関する認知と理解を深めることを目的とし、当院の看板のライトアップを実施した。また、テレビ、新聞等の各種取材に応じた。

《効率的かつ適正な運営》

【運営管理体制の充実】

○ 両病院ともに、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに対応ができるよう、執行部会議や経営五役会議等を定期的で開催し、迅速な協議や意思決定、情報の共有化を図るとともに、病院の実態に則した機動性の高い病院経営に取り組んだ。また、運営本部と両病院合同による経営会議を毎月開催するとともに、理事会を計10回開催し、外部理事等の知見も積極的に取り入れながら、経営状況の把握や年度計画の進捗状況等を管理し、法人の全体的な視点から、経済性・効率性の追求を徹底するなど、適切な法人運営に取り組んだ。

組織のマネジメントを強化するため、管理監督者を対象とした研修を実施した。さらに新規採用者を対象とした新入職員研修、主任・係長昇任者及び昇任後5年経過した職員を対象とした研修を実施し、組織の強化を図った。さらに、全職員を対象としたコンプライアンス研修や、係長以上と係員を分けてハラスメント研修を実施するなど、管理体制の充実に努めた。

【先端技術の活用推進等による業務改善】

○（市民病院）AIを用いた画像診断補助システム、プログラム医療機器等を活用し、より安全で質の高い医療の提供を行った。また、生成AIについては、電子カルテへの音声入力システムの試験的導入や、全職員を対象とした病院の収支に関する説明動画の作成に活用するなど、様々な取組を行った。ランサムウェア等のサイバー攻撃に対するセキュリティ対策として、市民病院でIT-BCPを想定した電子カルテ障害発生時の運用シミュレーションを行った。また、全職員を対象に、情報セキュリティ研修を実施した。

《職場環境の向上に向けた取組》

- 機構全体として、「心の健康づくり計画（令和7年4月改訂）」に基づき、毎月のメンタルヘルスの基礎知識の周知や、eラーニング等を実施した。「仕事と家庭を両立するためのパパ・ママサポートの手引き」及び「仕事と介護両立支援ハンドブック」改訂版の発刊し配付するとともに、会議等を通じて職員に周知徹底した。ハラスメントの防止に向けて、係長以上と職員に分けて全職員を対象としたハラスメント研修を実施し、あわせて相談窓口の周知、さらに職員アンケートを実施した。また、課長以上を対象としたマネジメント強化を図る研修を実施し、ストレスチェックを行い、その結果から対策を講じることにより、働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。医師や管理職を対象とした人事評価制度を引き続き実施し、職員のモチベーションの維持・向上を図った
- （こども病院）働き方改革の考え方を踏まえ、看護師においては、薬剤師、検査技師、病棟クラーク等各職種により、引き続きタスクシェアリング及びタスクシフティングに努め、業務の効率化に取り組んだ。
- （市民病院）医師の働き方改革を踏まえ、引き続き「働き方改革コアメンバー会議」にて時間外労働のモニタリング及び分析を毎月実施し、適正な労働時間管理に継続して取り組んだ。また、看護師、薬剤部、放射線部についても業務負担軽減に取り組んだ。

《法令遵守と公平性・透明性の確保》

- 管理監督者について、コンプライアンス研修やハラスメント研修を実施するなど、様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。また、法人全体の業務の適正化及び効率化の観点から、監事及び監査法人による監査を受けるとともに、内部監査を実施するなど、市立病院として適正な病院運営を行った。
個人情報保護法に関する全職員向けの研修や情報セキュリティ研修を実施するなど、職員の教育を徹底した。また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録開示委員会で開示の可否を適切に決定した。

《持続可能な経営基盤の確立》

【経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化】

- （こども病院）物価高騰や診療報酬改定の影響下の厳しい状況に対し、取り組むべき課題を明確にした上で、医師を集めた経営状況説明会、医ケア児のレスパイト、日帰りアレルギー負荷試験等の施策に取り組み、収益の確保及び費用節減に取り組んだが、赤字の解消にはつながらず、増収減益の厳しい病院経営を余儀なくされた。
- （市民病院）施設基準の要件を遵守しながら、高度な手術・処置が必要な新規入院患者を積極的に受け入れ、救急搬送件数の増加に取り組んだ。救急搬送件数については、様々な対策を立案し実施することで令和7年度下半期においては前年と比較して増加に転じた。急性期を脱した患者の転院・退院調整等に当たっては、適正な入院期間の判断基準を定め、計画的に実施することで業務負荷が分散され、病床稼働率の維持に繋がった。これらの取組により、病床利用率は87.6%と令和6年度の86.5%より増加傾向にあり、それに伴い医業収益も大幅に増加した。

【施設・設備の適正管理】

- （市民病院）あり方検討の進捗と中長期修繕計画に基づき、経年劣化に伴う設備の維持・修繕を行った。あり方検討の進捗を踏まえ、施設・設備のアセットマネジメントについて、病院機能維持と修繕緊急性の両面から優先度を検討し、令和8年度及び令和9年度の実施方針を決定した。省エネルギー推進委員会にて、院内の照明をLEDへ変更するなどして、エネルギー削減に努めた。

《収支改善》

【収益確保】

- （こども病院）入院患者数の実態等を反映させた診療科の割り当て病床数の変更や共通病床を新たな施策用の病床にあてる等、病床再編により効率的な病床稼働に努めた。施設基準管理システム等を活用し、適切な施設基準の維持管理を図るとともに、保険診療検討ワーキングチームを中心に、診療報酬請求プロセスの改善活動を実施し、診療報酬業務の更なる精度向上に努めた。

- （市民病院）副院長をリーダーとする「病床管理会議」を毎朝開催し、効率的なベットコントロールを促進するし、重症度、医療・看護必要度の維持に向けた様々な取組について情報共有を行った。

レセプトチェックシステムのカスタマイズを適宜行うとともに、査定減対策として診療科毎のカンファレンスに医事課並びに医療事務委託会社の職員が参加し、情報提供・情報共有に努めるなど、レセプトの請求精度向上に取り組んだ。また、未収金についても、適正に取り組んだ。

【費用削減】

- （こども病院）治験における患者管理システムやクラウド型の業務アプリ構築プラットフォームを導入し、業務の効率化を図ることで職員の適正配置に努めた。診療材料については、積極的にSPD（医療材料物流管理）受託業者と連携し、安価な同種同効品への切替えや更なる価格交渉を徹底するなど、経費削減に努めた。省エネルギー委員会を中心に、グループウェアでの節電の呼びかけを行い職員の意識醸成を図ったほか、照明の間引き、エアコンの上限設定を実施するなど、省エネに努めた。
- （市民病院）AIを用いた画像診断補助システム、プログラム医療機器、また、電子カルテへの音声入力システム等の導入により医療の質や安全の確保、業務効率化を図った。SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントによるベンチマークを実施し、診療材料の価格交渉を行った。省エネルギー推進委員会にて、職員等へ節電に関する啓発活動を進め経費削減に努めた。

《福岡市民病院のあり方検討への対応》

将来的な福岡市民病院のあり方に関して、令和6年11月の福岡市病院事業運営審議会からの答申を受け、令和8年1月に福岡市において「福岡中学校への移転整備」や「国家公務員共済組合連合会千早病院との再編統合に向けた協議」などの方針決定がなされ、令和8年2月の福岡市議会で示された。今後は、福岡市の方針を踏まえながら、感染症医療等の診療機能の充実に取り組む。

＜主な意見等＞

- 重点項目はだれが決めているのか。
- 重点項目は市で決めている。
- こども病院の業務実績等報告書の「良質な医療の実践」について、前院長の原院長の時代につくられた川崎病のセンターを現在も引き継がれ、症例数が全国1位ということである。また、研究代表を3件もとっていることも素晴らしいことである。さらに、脳死下の臓器提供を行ったということで、いかにこども病院の診療のレベルが高いかを如実に表している。
また、年末年始一次救急の小児科当番医療機関として2日間診療を行っていただいたことについては感謝申し上げたい。
- 将来的な市民病院のあり方検討の実績について、感染症医療等の診療機能の充実とあるが、市民病院は救急医療にも力を入れているので、救急医療を記載してはどうか。
- 感染症医療等の「等」に含まれているが、確かに救急医療に力を入れているので、救急医療について記載したい。